

炭素循環をテーマにした大型映像作品の開発 Development in Large Scale Image Program about Carbon Circulation

新井 真由美^{1*}, 近清武¹, 池辺靖¹, 松山桃世¹

ARAI, Mayumi^{1*}, CHIKAKIYO Takeshi¹, IKEBE Yasushi¹, MATSUYAMA Momoyo¹

¹ 日本科学未来館

¹National Museum of Emerging Science and Innovation(Miraikan)

日本科学未来館で2011年に開発した大型映像作品「ちきゅうをみつめて」は、地球と生命、そして私たち人間の関係をテーマにしたファミリー向けのアニメーション番組である。宇宙で生まれた炭素原子を追いかけて地球にやってきた宇宙人によって、主人公の少女ナオコのまわりでは奇妙なできごとが起こり始める。ナオコは何度か不思議な映像に遭遇しながら、自分とほかの生物とを結ぶ大事なものに気づいていく。没入感あふれるドーム映像と音楽によって、地球と私たちを別の角度から”みつめる”体験となる作品である。

この作品を観覧することで、私たち人間は、ほかの生物と地球とを結ぶ”循環”というシステムの一部である、という大事なことに気がつく。また、地球システムを理解するという科学的な意味にとどまらず、宇宙からの視点で”ちきゅうをみつめて”いくことで、”自分を別の角度から再発見する”という体験にもつながる。

本番組では、原子レベルのミクロ視点、肉眼で見えるマクロ視点、宇宙から地球全体を俯瞰するグローバル視点で「ちきゅうをみつめる」映像体験が特徴である。そして、この3つの視点による映像体験が、私たちと地球との関係に、科学的な視点を拓いてくれるきっかけになると考えた。ドームの臨場感あふれる迫力映像とファミリーに親しみやすいアニメーション映像が、子どもにも大人にも日常とは異なる驚きや発見を提供している。

キーワード: 炭素循環, 宇宙, 地球, 科学コミュニケーション, アニメーション, 大型映像作品

Keywords: Carbon Circulation, Space, Earth, Science Communication, Animation, Large Scale Image Program